

第6学年 社会科の実践

1. 単元名 「全国統一への動き」 (全9時間 本時6時間目)

2. 単元目標

- ・戦国の世が統一されたことを理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を通して、情報を適切に調べまとめる技術を身につけるようにする。
- ・北条氏をはじめ信長、秀吉、家康の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・北条氏の業績や信長、秀吉、家康の全国統一について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多面的な思考や理解を通して、日本や自分たちが住んでいる小田原の歴史や伝統を大切にして国や地元を愛する心情を養う。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

聴く・話すについては、みんなにどう話したら伝わるのか、どう聴いてもらったらうれしいかを児童が話し合い、それができているかどうか、児童に問いかけながら指導している。聴くことについては、静かに聴く児童は多くいるが、その真意を理解しようとしたり、反応したりしながら聴くことができる子どもが少なかった。そこで、「友達の考えを聴いて、自分の心が動いたときにノートに書いていこう」という声掛けを大切にしてきた。すると、少しずつではあるが、友達の考えを理解しようとしながら聴く子どもが増えてきた。

話すことについては、担任に向かって話してしまったり、黒板ばかりを見て話したりする児童が多かった。そこで、みんなの方を見て話すために指示棒を使ったり、ジェスチャーを使ったりすることでみんなに伝えようとする児童が増えてきた。また、一気に話すのではなく、「ここまでいいですか」といった言葉を使って確かめながら説明する良さを伝え、そのような話し方ができている児童がいたらほめて価値付けしていくことを大切にしていく。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

児童同士が関わり合いひびき合えるよう、なるべく多くペアやグループでの話し合いを取り入れている。まだ自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聞いて終わってしまうペアやグループがある。そこで、グループの中で話し合いリーダーを設けた。そのリーダーを中心に話し合いを進めていくことで、伝え合うだけでなく質問しあったり深めたりするグループが増えてきた。自分にかかわることであると、多くの児童が熱心に話し合う場面があるので、なるべく児童にとって身近な学習課題を与えていくことを大切にしている。全体での話し合いになると、よく友達の話を聴いている児童は多いが、その意見交換の中に入ろうとする児童は限られており、少ない人数でひびき合っていることがある。クラスみんなでひびき合うことを目指していくために、自分の考えをしっかりと見せることに加えて、聴く・話すの土台を大切に指導していきたい。また、教師が話し合いをリードしすぎず、児童が中心となって、自分たちで問題を解決していけるような姿を目指していきたい。

4. 単元と指導について

〈単元について〉

本単元では、大名が領地を広げようと戦い、全国統一を目指す戦国時代を扱う。戦国時代は室町時代に起こった応仁の乱から始まり、その後豊臣秀吉が小田原の北条氏を倒して全国を統一するまでの100年間ととらえ、学習を進めていく。学習内容として、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に加えて、小田原の北条氏を最初に扱う。子どもたちの地元である小田原を築いてきた北条氏を学ぶなかで、どんな政策、戦いをしてくれて、どんな思いを大切にしてくるかに触れていく。全国統一の最後の砦であったことや、当時の関東を支配していたこと、農民たちを大切にしてくることを理解することで、地域を愛する心情を育てることにつながると思う。また、小田原の北条氏をはじめ、戦国時代の歴史を学び先人たちの考えをこれからの生活に生かしていくという、歴史を学ぶ意味を感じられるようにしていきたい。

〈指導について〉

前時までに、室町幕府が崩れ、戦国大名たちが全国統一を目指して争う時代へと進んでいく流れをつかんでいる。導入では、「戦国時代にどんな人が活躍したのだろう？」という問いから進めていく。子どもたちもよく知っているような武将が多く活躍しているなかで、小田原の北条氏も大きく活躍していることに気づくことで、戦国時代と小田原の関係に興味・関心をもつと考える。関東の多くを支配していた図や、戦国時代の100年間、最初から最後まで続いていたことを他の武将と比較したグラフで示すことで、北条氏の強さや、長く続くすごさに大きく感心すると考える。一方で、「なぜこんなにも強いのか？」「なぜ100年も続くことができたのか？」という考えが出ると考え、それらの疑問を解決するためにまずは北条氏の強さや長年続いた理由を、「戦い方」「政策・しくみ」「人柄」に分けて調べ学習を進めていく。

北条氏のことを調べ、クラスで共有していくなかで、「農民のことを大切にしている」「守りの堅い戦いで、戦に強い」「多くの人から信頼されていた」といった、北条氏に対してよい印象をもつ子どもが多くいると考える。そして、北条氏の最後である小田原攻めの様子を伝える。小田原城が豊臣軍に囲まれた図を見せ、この状態が3か月続き、戦いをせずに北条氏は降参してしまうことを伝える。子どもたちの反応は、「なんで戦わなかったのか」「3か月何をしていたのか」「これに勝てば全国統一なのに」といったものであると考える。また、そのなかで一番多い反応としては「なぜ降参してしまったのか？」であると想定し、その上で本時に子どもたちが解決したい問題は「北条氏はなぜ降参してしまったのか？」である。これまで学習してきた北条氏の戦い方や政策・しくみ、人柄を踏まえながら予想を考えてもらいたい。その予想を伝え合うなかで、北条氏の小田原の町の基盤をつくってきたことや、北条氏の小田原の人のことを思う気持ちに子どもたちが気づいてもらえるようにしていきたい。また、小田原攻めを北条氏側からだけでなく、豊臣側からの視点も大切にしながら学習を進め、多角的な視点をもてるようにしていく。そして、北条氏がなぜ降参したのかについて、これまでの学習から、根拠のある予想を伝え合うことで、自分の考えを深めたり、より明確にしたりする姿をひびき合いの姿とする。

単元の後半では、強さもあり、長く続いた北条氏を滅ぼした豊臣秀吉をはじめ、織田信長・徳川家康について学習していく。全国統一したことや、新たな戦い方や政策を生み出したことを調べていく。また、江戸幕府に北条氏の町づくりや政治が生かされていることや、北条氏の総構が多く城で参考に使われていることを知ることで、より地元である小田原への愛着が生まれてくると考える。ノート指導では、毎時間、「歴史日記」という振り返りを書くようにしていく。その時間で自分が感じたことや気づき、新たな疑問を書くことで、学んだことを整理できたり、クラスの新たな問いが生まれたりすることができると考える。また、予想を出し合い、話し合った後、最後に自分の考えを改めて書くことで、自分の考えの変容に気づけるようにしていきたい。子どもが書いた振り返りには、毎時間教師からコメント入れるようにしている。より深めてほしいことや、違った視点に気づけるようなコメントを入れ、多角的な視点を与えられるようにしていく。

【単元目標】

- ・戦国の世が統一されたことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を通して、情報を適切に調べまとめる技術を身につけるようにする。
- ・北条氏をはじめ信長、秀吉、家康の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・北条氏市の業績や、信長、秀吉、家康の全国統一について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多面的な思考や理解を通して、日本や自分たちが住んでいる小田原の歴史や伝統を大切に国や地元を愛する心情を養う。

前時まで・・・室町幕府が崩れ、戦国大名たちが争っていく時代へと進んでいく流れをつかむ。

戦国時代にどんな人が活躍したの？①

- ・織田信長は有名だね！
- ・豊臣秀吉は知ってる
- ・徳川家康も知ってる
- ・真田幸村おれ大好き！
- ・武田信玄カッコいい
- ・小田原の北条も戦国時代の人だよ？

関東をすべて支配していた図や、戦国時代 100 年を最初から最後まで残っていたことが分かるような資料を子どもに掲示する。

- ・関東全部だ！
- ・俺たちの北条すごいじゃん！
- ・ずっと続いているってすごい！
- ・すごいつよいね！
- ・なんでこんなに強かったの？
- ・こんなに長く続くために何かしていたの？

【予想】

- ・戦い方が強かったんじゃない？
- ・総構を聞いたことがあるよ！
- ・なにか政策をしていたと思う。
- 特別な訓練をしていたとか→

資料を読み取り、北条五代の政治の特徴を捉えることができる。【知・技】

北条氏はなぜ強くて、長く続いたの？②③④

政策・政治	戦い方	人柄
・検地を行い、税金を決めた。 ・税の仕組みを変え、地方の領主が勝手に上げることができなくなった。 ・大事なことは話し合いで決めた。(小田原評定) ・裁判の仕組みを作り、どんな人でも訴えられるようにした。(目安箱) ・家訓二十一箇条 ・虎のはんこ→地方の領主は勝手に命令出せない。	・「総構」⇒9 キロメートルで囲まれている 深さは10m以上 幅は16m⇒障子堀 ・籠城作戦 ・上杉謙信、武田信玄にも勝利 ・戦わずして、同盟を組んで終わることもあった。 ・城の作りが工夫されている。 (豊臣秀吉や徳川家康も参考にするほどのづくり)	・民衆を大事にしていた。 ・民衆からとても信頼されていた。 ・親子の関係を大切にした。 ↓ ・家督争いが一切なかった。 ・上の立場になっても満足しない

- ・みんなから信頼されていてすごい！
- ・いろいろな戦いに勝ってきてすごい！
- ・親子関係を大切にしている素敵！
- ・こんなに信頼もされて、戦い方も最強なら負けられないよ！
- ・最後はどうやって終わってしまうの？
- ・豊臣秀吉に負けると聞いたことが・・・

・豊臣秀吉の小田原攻めの、完全に包囲されてしまっている図を掲示する。(有名な将軍たちも来ている)

・この状態が3か月続き、北条氏は戦わず、降参してしまったことを伝える。

北条氏がなぜ降参してしまったかについて、これまでの学習から予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】

- ・こんなに囲まれているとさすがにむりかな・・・
- ・え！戦わなかったの？
- ・これに勝てば全国統一なのに！
- ・北条氏はどうして戦わなかったの？
- ・北条氏は何をしていたの？
- ・北条氏はなぜ降参したの？
- ・豊臣氏は何をしていたんだらう？

北条氏はなぜ降参したのか？⑤⑥(本時)

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・数であまりにもさがあったから戦わなかった。⇒話し合いで決めた。・家族や民衆を大事にしたいから戦わなかった。・ずっと話し合いをして迷っていた。 | <ul style="list-style-type: none">・武器や食料が尽きて最終的に戦えなかった。・最初は今までの戦い方で守りの戦術をしていたけど、最終的に戦えなくなった。・一夜城のすごさに、戦う気力がなくなった。 |
|---|---|

- ・詳しい人に聞いてみよう！
- ・こんなに強い北条氏を倒した豊臣秀吉はどんなことをしてきたんだらう。
- ・徳川家康も小田原攻めに来っていたね！
- ・織田信長はもっと強いんじゃない？
- ・3人を調べてみたい！

資料を読み取り3人の武将の政治の特徴を捉えることができる。【知・技】

豊臣秀吉はどんな人物だらう？⑧

徳川家康はどんな人物だらう？⑨

織田信長はどんな人物だらう？⑦

政策

- ・刀狩令
- ・太閤検地
- ・朝鮮出兵

戦い

- ・全国統一
- ・大阪城
- ・明智を倒す

政策

- ・江戸幕府を開く
- ・鎖国
- ・参勤交代

戦い

- ・江戸幕府の作り
- ・関ヶ原の戦い

政策

- ・楽市楽座
- ・キリスト教との関係

戦い

- ・鉄砲を取り入れた
- ・長篠の戦い
- ・本能寺の変(全国統一まであと一歩)

6. 本時について

- (1) 本時目標 北条氏がなぜ降参してしまったかについて、これまでの学習や、調べたことから予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】
- (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
北条氏はなぜ降参したのか？ 民衆を大事にしたい ・民衆を守りたかった ・無理に戦って民衆を死なせたくなかった。 ・町に被害を与えたくなかった。 ・天下統一よりも人の命のほうが大事 たえられなかった ・秀吉の一夜上城に戦意が喪失した。 ・相手の軍が多すぎてあきらめた ・農民たちが恐怖で耐えられなかった。 北条側の思い ・囲まれていてストレス ・ずっと怖い 豊臣側の思い ・茶会を開くくらい、余裕 ・これは耐えれば勝てるな ・もしかしたらぎりぎり？	○前時までに学習したことを足跡として残し、いつでも振り返れるようにする。 ○子どもの考えを板書に書くとき、仲間分けをしていく。 ○自分の考えの場所にネームプレートを、ある程度考えが出てきてからはり、それぞれの立場がはっきりするようにする。 ○つぶやきを広い、問い返しをして、わからないまま話し合いが進まないようにする。 ◆北条氏がなぜ降参してしまったかについて、これまでの学習や、調べたことから予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】

7 実践を終えて

【単元について】

本単元では、地元である小田原城を拠点としていた北条氏が関東をすべて支配していたこと、戦国時代 100 年間のうち、最初から最後までいた唯一の武将であったことを知ることを導入とした。そこから北条氏の実績や戦い方、人柄についてあらゆる資料をもとに調べていった。単元全体を通して、振り返りを書く時間を確保した。その振り返りから、次時につながる問いを見つけ、全体で共有しながら学習を進めていった。根拠となる資料として、本やインターネットの情報だけでなく、実際に「総構」の跡地に足を運び、自分の目で確かめる活動も大切した。北条氏と豊臣氏の全国統一をかけた最後の戦いの資料でも、文章だけでなく、戦いの様子を図で示したり、数字で人数の差を示したりした。単元を通して、子どもたちが具体的にイメージできるような資料を意識して活用することができた。

【子どもの解決したい問題となっていたか】

身近な小田原の武将である北条氏に関して、子どもたちは最初、名前だけ知っているという実態であった。北条氏が関東を支配していたり、戦国時代に 1 番長く続いていたりした武将であることを知ったとき、多くの子が興味・関心を持った。北条氏の最大の特徴である「総構」について知ったとき、「私の家が中に入っている！」「三の丸小学校の学区がほとんど中にある！」と、関心をもって学習していた。北条氏の実績のすごさを多く知り、最後、全国統一をかけた最後の戦いで、豊臣氏に対して戦いをせずに降参をしたことを伝え、「勝てば全国統一なのに！」「なんで降参したの？」といった疑問が子どもから多く出てきた。その後、自分の考えを書く際に、小田原攻めに関して意欲的に調べ、ノートに自分の考えを、これまでの学習から書いている子どもが多かった。そういった姿から、子どもの解決したい問題に、少しでも近づくことができたと思う。

【ひびき合いについて】

本時では、北条氏がなぜ降参したのかについて、これまでの学習や、小田原攻めに関する資料からの根拠をもとに話し合いを進めた。北条氏について、民を大事にしてきたことや、守りの堅い戦いが得意なことなど、これまで学習してきたことに関しては根拠を明確にして考えをもち、伝えられる子どもはいたが、小田原攻めに関する資料や、豊臣側の考えの根拠に関しては、資料を自分のものにできていない子どもが何人かいた。調べる時間を確保したり、話し合いの中で問い返しをして全体で共有したりすることで、確かな根拠をもつことができたと思う。本時の話し合いでは、教師が主体となって考えを進める時間が多くあった。子ども一人ひとりが考えや根拠にこだわりをもって話し合うことができれば、さらにひびき合う時間となったと思う。

【成果と課題】

成果としてはまず、これまでの学習を根拠に話し合いができていた点が挙げられる。北条氏の「戦い方」「政治」「人柄」をまとめたものをクラスに掲示し、その資料を示しながら話したり、「総構」の跡地にみんなで行った経験を根拠に話したりする姿が多く見られた。また、話し合いをしていく中で、考えが大きく2つ出てきた。互いの意見を伝え合い、最後の振り返りでは、多くの子どもがどちらの意見も自分の考えに取り入れていた。考えが二極化にならず、多面的に考えをもつことができたことがよかった。

課題としては大きく2つ挙げられる。1つ目は、北条側の考えが多く出ていたことである。北条側だけでなく、豊臣側の思いや意図を考えることで、より多面的に話し合いが進んだと思う。豊臣側の思いを考えると同時に、北条側の農民の思い、豊臣側の家臣たちなど、様々な視点から北条氏の降参についてみていければ、より話し合いが深まっていっただろう。何人かの子どもが多面的な視点から考えていたので、そこから全体に広げ、話し合いを焦点化していけば、さらに視点が広がり、深まる話し合いができたと思える。

2つ目は、教師が主体となってしまった部分が多くあったことである。考えが大きく2つ出てきたところで、教師の方からではなく、子どもから自分の考えがどちらか、ネームプレートを動かしたり、動かした理由を伝え合ったりして、子ども主体で話し合いが進められると、さらに深まる授業ができたのではないかと考える。これからは、子どものつぶやきや、思いを見逃さず、子どもが主体となる授業の展開を意識して取り組んでいきたい。